※令和４年度以降入学生用

学校番号	3032

令和５年度　芸術科（工芸）

教科	芸術	科目	工芸Ⅰ	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	「工芸Ⅰ」　（日本文教出版）						
副教材等	なし						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

１年生の授業では、伝統工芸と呼ばれる技法を一通り体験できるように「漆工」「染織」「陶芸」の３つ技法を用いた課題を用意しています。身近にある工芸品がどのように作られているのか、その入り口を体験しながら、色や形といった造形的な美しさや素材の美しさに加えて、使う用途・目的に即した形など『表現』について学びます。また、『鑑賞』を通して、作品の意図や工夫などを読みとり、自己の表現に生かしましょう。

制作全般を通して「綿密な下準備」「注意力（多くの道具を使うため）」「色々なものをアイディアに取り込んでいく発想力」が大切です。１つの手作業から多くのことを見出して工夫しましょう。

２　学習の到達目標

工芸の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり工芸を愛好する心情と生活を心豊かにするために工夫する態度を育てるとともに、感性を高め，創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、工芸の伝統と文化についての理解を深める。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・制作方法を理解し、工芸表現に必要な技能を身につけ、意図に応じて材料や用具を活用することができている。	・身の回りにある自然を深く観察し、生活体験の中で感じ取ったことや考えたこと、用途と美しさの調和を考え、素材や表現の良さを生かした構想を練っている。 ・工芸の創造活動の喜びを味わい、多様な表現方法や工芸文化に関心を持ち、表現や鑑賞に取り組む。	・作品の表現の工夫や素材の生かし方・技法などを理解し、そのよさや美しさ、生活や社会を豊かにする工芸の働きについて学び、取り組む。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	漆工 「カシュー塗りの器」	【漆工】 スタイロフォームを用いて雄型を作り、樹脂で形成した器にカシューを塗る。研磨作業などの根気のいる作業が続くが、素材の特性に関する知識、応用力と想像力の伸長を図る。 ■制作 ・スケッチ、作図 ・切り出し、形成 ・樹脂の張り込み ・カシューの塗布 ・研磨作業 ■相互鑑賞	a：樹脂やカシューの扱い方に対する基本技術を理解し、特性を生かし効果的に表現しようとしている。（知識・技能） b：制作する形状を深く観察し、形を生かした表現について仕上がりまでの構想を練っている。（発想や構想） b：作品の良さや表現の工夫などを感じ取り、理解を深めている。(鑑賞) c：特徴や造形的要素、美しさを感じ取り、制作活動に取り組もうとしている。	スケッチ 図面 制作途中の作品 提出作品	制作途中の作品 提出作品	スケッチ 図面 制作途中の作品 提出作品
	『鑑賞レポート』	【鑑賞】 大阪府高等学校美術・工芸展もしくは近郊の美術館での鑑賞レポート ・本物をじっくり味わい鑑賞しレポートにまとめる。	a：他者の作品を理解しようとしている。（知識） b：作者の意図や工夫を感じ取り、理解を深める（鑑賞） c：他者の作品を理解しようと取り組んでいる。	レポート		

※令和４年度以降入学生用

後期	染織 『藍染の抜染エコバック』	【染織】 藍染（抜染）の技法を使って型染めでエコバックを制作する。観察力・想像力を高め、造形上のヒントを見つけ出すための眼を育てる。また、文様を反復させ配置やバランスを考えることで構成について学習する。 ■制作 ・模様、図案制作 身近な広告・本・雑誌等からヒントを得て模様を考える。 ・展開、構成スケッチ 文様の形を展開し、出来上がった文様を反復させ配置やバランス、構成を考える。 ・染め 布を染める。 ・型紙つくり 文様を切り抜き紗張りする。 ・抜染 抜染糊を置き、抜染後洗い落とす。	a：染や型作りの基本技術を理解し、素材の特徴を生かして表現しようとしている。（知識・技能） b：身近な素材からヒントを得て図案化し、構成の調和や藍染の素材を生かした構想が練っている。（発想や構想） b：染色のよさや美しさ、生活や社会を豊かにする工芸の働きについて理解を深めている。（鑑賞） c：モチーフの観察から特徴や造形的要素、美しさを感じ取り、制作活動に取り組もうとしている。	スケッチ 文様・図案 構成図 制作途中の作品 提出作品	文様・図案 構成図 制作途中の作品 提出作品	スケッチ 文様・図案 構成図 制作途中の作品 提出作品
	陶芸 『日常生活で使用できる器つくり』	【陶芸】 紐作り・板作りの技法を用いて、器を制作する。それぞれの技法について学習するとともに、素材や技法の持ち味を生かしたデザインを考える。また、素材に対する理解を深め、造形的発想力の伸長を図る。 ■制作 ・練り ・紐作り ・板作り ・自由成形 ・施釉	a：器のデザインについて理解し、陶の素材を生かして表現しようとしている。（知識・技能） b：身近な形や持ち手からヒントを得て形を探り、陶の素材や技法を生かした構想が練っている。（発想や構想） b：陶芸のよさや美しさ、生活や社会を豊かにする工芸の働きについて理解を深めている。（鑑賞） c：紐作り、板作りといった成形の基本技術を習得し、素材や技法の特徴を生かして、制作活動に取り組もうとしている。	制作途中の作品 提出作品	制作途中の作品 提出作品	制作途中の作品 提出作品
	校内作品展鑑賞	【鑑賞】 校内作品展鑑賞。美術のみならず、広く芸術表現について（工芸・書道も含む）鑑賞し、味わう。	a：他者の作品を理解しようとしている。（知識） b：作者の意図や工夫を感じ取り、理解を深める（鑑賞） c：他者の作品を理解しようと取り組んでいる。	レポート		

※令和４年度以降入学生用

			a: b: c:			

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度